

「カートリッジ式小便器(無水小便器)」で リニューアル

ホテルのような快適空間へ

TOPICS

大丸心斎橋店は、建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計で、1922年に竣工して以来、今日まで、重厚かつ華麗な格調高い外観と、豪華な装飾に彩られたインテリアによって、御堂筋の顔として多くの人々に親しまれ、愛されてきた。その後の度重なる増築や改修も、このヴォーリズの貴重な財産を損なわないよう、慎重に検討し進めてきたことは言うまでもない。

また大丸は、ISO14001の取得にもみられるように、環境問題には企業として全面的、かつ積極的に取り組んできている。例えば、環境に配慮した商品の販売や簡易包装の推進と包装の適正化、そしてエネルギー使用の管理など、環境マネジメントシステムの改善に努めている。

特に今回ご紹介する事例は、2009年4月に施行される省エネルギー法の改正にも対応したもので、画期的な節水を試みたトイレのリニューアルである。当店で、以前から“環境に優しいトイレ”、“話題性のあるトイレ”をつくりたい、

という基本構想を基に種々検討してきたが、INAXの「カートリッジ式小便器」はまさしくこの要望にかなった商品という結論に達した。“水を使わない”ということは、省資源、省エネルギーはもちろんであるが、同時に水道代のコストダウンにつながることも大きなメリットであった。

しかし、水を流さない「カートリッジ式小便器」というシステムは初めての経験であり、なかなか想像しにくかった。そのため採用に当たっては、事前にINAX大阪支社の実例を視察し、その効果を確認した上で採用を決定した。

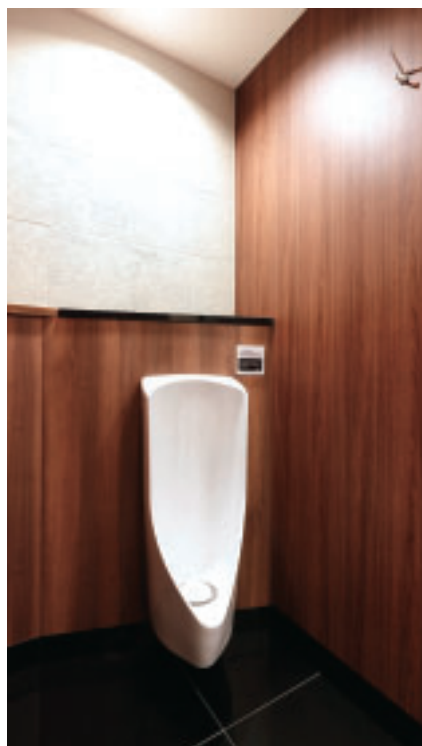
便器に水が流れないということは、臭いが発生するのではないか、あるいは使い方が分からないなど、お客さまからの意見が多く寄せられるのではないかと懸念したが、オープン後約4ヶ月(2009年1月現在)を経過した現在、特に問題は起きていない。

従来の小便器に比べると、凹凸やセンサーのない、すっきりしたシャープな形

状である。したがって「最初は戸惑った」という社員の声もあったが、新型の「カートリッジ式小便器」と知って納得したようである。節水の経済効果など、まだ集計するまでに至っていないが、6L洗浄の大便器へのリニューアルも含め、大幅な水道水使用量の削減を期待している。

今回の本館5階男子のトイレのリニューアルも、従来と同様、ヴォーリズの格調を失わないよう、よりグレードアップさせるべく計画を詰めていった。大きな特長は、男子トイレでは当たり前小便器が立ち並び景観を見直し、個々にブース化し、小便器を約20度振ってレイアウトしたことである。使用時の姿が直接には見えにくくしたことによって、男子トイレの雰囲気は一変した。これまでのところお客さまにも社員にも好評という報告を受けている。クラシカルなホテルのような空間が演出できたように思っている。*

すえおか・しんいちろう—大丸心斎橋店業務推進部施設担当



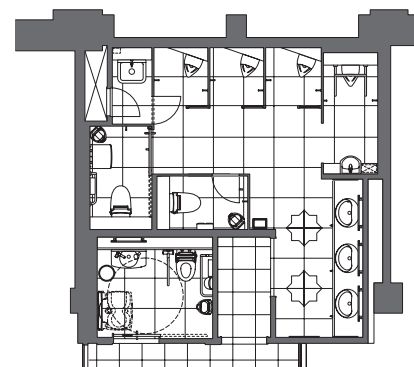
カートリッジ式小便器



上—5階男子トイレ
入り口
下—男子トイレ内観



多目的トイレ



男子トイレ平面図 縮尺1/150